

名瀬測候所長のホームページをご利用いただき、ありがとうございます。

所長の木村誠治（きむらせいじ）です。

名瀬測候所は、明治 29 年に「大島測候所」として設置されて以降、観測や予報などの気象業務を続けており、特に観測は 130 年近くにわたって絶え間なく継続しています。観測結果は、気象の経年変化を知ることができるだけでなく、地球温暖化の監視を行う全国で 41 地点の 1 つとして指定されていることから、長期的な気候変動の監視にも役立てられています。



さて、近年は地球温暖化の進行により豪雨災害が激甚化・頻発化しており、全国各地で毎年のように甚大な気象災害が発生しています。奄美地方でも、2024 年 11 月に与論町で線状降水帯が発生し大雨特別警報を発表しました。また気象災害だけでなく、前回の地震から 70 年以上が経過した南海トラフ地震の発生が懸念されており、2024 年 8 月には初めて南海トラフ臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。

気象庁では、線状降水帯に関する取組の強化や巨大地震への対策の強化を行っています。しかし自分や大切な家族・友人の命を自然災害から守るには、「自らの命は自らが守る」という意識のもと一人一人が自然災害と向き合うことが大切です。日ごろからハザードマップなどで自分の周りに潜む自然災害のリスクを知っていただきますようお願いいたします。

名瀬測候所は、2024 年 11 月に地域防災機能の強化等を目的として奄美市マリントウン地区に建設された合同庁舎へ移転しました。自然現象による被害を防止・軽減し、奄美地方の皆さまの安心・安全を確保するため、自治体や防災関係機関、報道機関との連携・協力をこれまで以上に強め、職員一丸となって分かりやすい情報の提供や取組を進めてまいります。

今後ともよろしくお願いたします。

令和 7 年 3 月
名瀬測候所長
木村 誠治